有効なHTTPS復号化を使用したSWGトラフィック復号化について

内容

はじめに

このドキュメントでは、HTTPS復号化が有効な場合にCisco Secure Web Gateway(SWG)がトラフィック復号化を処理する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco Secure Web Gatewayに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

問題

HTTPS復号化が有効になっているWebポリシー規則セットでは、TLSハンドシェイクにサーバ名インジケータ(SNI)が存在する場合にのみ、トラフィックが復号化されます。

解決方法

セキュリティおよびアクセプタブルユースポリシーは、要求の送信先となる宛先サーバに基づいて適用できます。これらの宛先サーバに対して宛先リストを作成し、それに応じてルールを適用

できます。

トンネルとAnyConnectのDNSポリシーのブロックは引き続き適用できます。

原因

この動作は意図的なものです。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。